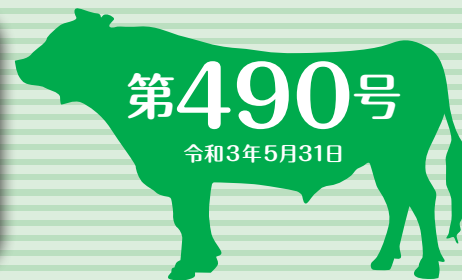


畜産茨城

第490号

令和3年5月31日



目次

常陸の輝き杯……………	1	令和3年3月市況……………	8
令和3年度畜産施策方針と重点施策…	2	肉用子牛生産者補給金発動状況……………	8
新任あいさつ……………	3	令和3年4月市況……………	9
茨城県畜産センター……………		牛マルキン発動状況……………	9
令和3年度新規試験研究課題の紹介……	5	茨城県の野生イノシシの豚熱の発生状況と	
茨城県初となる乳用種国産種……………		養豚場への豚熱ウイルスの侵入防止と発生予防…	10
雄牛誕生「記念贈呈式」を開催……	6		

発行所／茨城県水戸市梅香1丁目2番56号
公益社団法人 茨城県畜産協会
電話 029 (231) 7501
URL <http://ibaraki.lin.gr.jp>
発行人／八木岡 努



船橋競馬場にて冠レース「茨城県ブランド豚肉「常陸の輝き」杯」を実施

常陸の輝き推進協議会

令和3年3月19日（金）、令和2年度第12回船橋競馬（主催：千葉県競馬組合）が開催され、最終日第5レースにおいて冠レース茨城県ブランド豚肉「常陸の輝き」杯を実施いたしました。

当日は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から無観客での開催であり、ファンサービスの実施を行う事は出来ませんでした。勝利馬の騎手、馬主、調教師、厩務員のレース関係者に対し、副賞として「常陸の輝き」精肉他詰め合わせセットの提供を行いました。

レース後、勝利騎手である本田正重騎手に目録

を贈呈する際「「常陸の輝き」を食べて次のレースも頑張ってください」と伝え、「楽しみにしています！次のレースも頑張ります！」と次回以降のレースに対する意気込みと「常陸の輝き」詰め合わせに対する感謝を述べられておりました。

昨年度中は、新型コロナウイルスの影響により、「常陸の輝き」を多くの消費者に知ってもらうためのイベント等への参加は、ほとんどが中止となりました。一刻も早い新型コロナウイルス感染症の終息を願います。

地方競馬の収益金は畜産の振興に役立てられています

令和3年度畜産施策方針と重点施策

茨城県農林水産部 次長兼畜産課長 鴨 川 修

【現状と課題】

昨年度に引き続き、畜産課長として本県畜産の振興に尽力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

また、本年2月には県内で2006年1月以来15年ぶりに高病原性鳥インフルエンザが発生したところですが、畜産関係団体の皆様や県関係団体、自衛隊の御協力のもと殺処分を無事完了することができました。心より感謝申し上げます。

さて、本県畜産は、令和元年産出額が1,243億円と農業産出額の約28.9%を占める基幹産業となっております。

一方、畜産を取り巻く情勢は、高齢化による担い手の減少や資材価格の高騰等による生産コストの増大に加え、人口減少の加速化による国内市場の縮小や新型コロナウイルス感染症の影響による外食及びインバウンド需要の低迷が見込まれ、厳しさを増しております。このような厳しい状況においても、儲かる畜産経営体を育成し、本県畜産の振興を推進していくためには、生産性の向上や規模拡大、経営・飼養衛生管理技術の高度化等による収益性の高い経営への転換、さらなる高付加価値化やブランド化、国内外における積極的な販路拡大等について、長期的な戦略に基づく取組が求められております。

また、国内で発生が拡大している高病原性鳥インフルエンザや豚熱等の家畜伝染病の発生予防対策やまん延防止対策や、霞ヶ浦流域内での畜産環境対策の徹底などが引き続き重要な課題となっております。

【対応方針】

県では、儲かる畜産経営体の育成と畜産業振興を推進するために必要となる施策を「銘柄畜産物のブランド力強化と生産振興対策」「家畜衛生対策の充実と安全安心な畜産物の生産」「環境にやさしい資源循環型畜産の実現」「試験研究の推進と畜産技術の普及促進」の4本の柱に体系化し、関係者と連携強化を図りながら推進してまいります。

【主な重点施策】

(1) 銘柄畜産物のブランド力強化と生産振興対策

「常陸牛」については、子牛生産から肥育出荷まで県内で一貫した生産体制の構築により更なる品質向上の取組と、マーケティング戦略に基づく米国市場における販路拡大や国内外への販売促進を支援することで、生産から流通・販売までの対策を一体的かつ戦略的に展開し、トップブランド化を目指してまいります。

「常陸の輝き」については、系統豚の飼養施設の新設により更なる高品質安定生産体制を構築し、「奥久慈しゃも」については、更なる販路拡大に向け、生産から流通販売まで一体的な推進方策の検討を進めてまいります。また、酪農については、優良な後継牛の導入支援やクラスター計画に基づいた施設整備により、経営規模拡大や収益性の向上を支援してまいります。

(2) 家畜衛生対策の充実と安全安心な畜産物の生産

家畜伝染病の発生を予防するため消毒機器や防鳥ネット設置の支援、飼養衛生管理基準の遵守指導に加え、豚熱対策として、飼養豚のワクチン接種や野生イノシシへの経口ワクチン散布を実施してまいります。また、万が一が一大規模農場で家畜伝染病が発生した場合のまん延防止対策として、市町村や関係団体等が一体となった防疫措置体制の構築及び防疫マニュアルの見直しを行い、危機管理体制を強化してまいります。

(3) 環境にやさしい資源循環型畜産の実現

畜産経営の大規模化や地域的偏が進み、環境に対する県民の関心が高まっている中、環境に配慮した畜産経営が求められていることから、家畜排せつ物の適正管理と利用促進を図るほか、霞ヶ浦流域外への良質堆肥の広域流通や家畜排せつ物処理施設の補改修を支援し、畜産から霞ヶ浦への負荷削減に取り組みます。

(4) 試験研究の推進と畜産技術の普及促進

①銘柄畜産物のブランド力強化と生産振興対策②環境にやさしい資源循環型畜産及び地球温暖化対策等を支える技術の開発③畜産技術の習得支援や人材育成等を3本柱として試験研究を展開し、畜産課や畜産振興課等の行政機関をはじめ、国立研究開発法人等の研究機関や大学、関係団体、民間等と連携強化を図りながら取組を進めてまいります。



新任あいさつ

茨城県畜産センター長 舘野 英喜



この度の人事異動により、畜産センター長として赴任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

畜産物のグローバル化等が進展する中、儲かる畜産経営の育成と本県畜産業の振興を推進していくためには、生産性の向上や規模拡大、経営・飼養管理技術の高度化等による収益性の高い経営体の育成、長期的な戦略に基づく更なる高付加価値化やブランド化、国内外における積極的な販路開拓等の取組が求められると思われます。

これらに対応すべく、「銘柄畜産物のブランド力強化と生産振興対策」並びに「環境にやさしい資源循環型畜産の実現」に加え、「畜産技術の習得支援や人材育成」を3本の柱として試験研究を展開するため、畜産課や畜産振興課等の行政機関をはじめ、国立研究開発法人並びに大学等の研究機関、関係団体、民間等と連携強化を図りながら取組を進めてまいります。

まず、「銘柄畜産物の強化と生産振興対策」に関しましては、平成29年に当センター内に設置されました受精卵供給センターを活用し、優良受精卵を活用した県内産和牛子牛の増頭対策に取り組んでおります。さらに、肉用牛研究所では「常陸牛」生産の基本となる高能力種雄牛の造成に継続して取り組んでおり、今後とも常陸牛の生産拡大とブランド力強化に努めてまいります。また、養豚研究所では造成しましたデュロック種の系統豚「ローズD-1」を活用した豚肉「常陸の輝き」のブランド力向上に寄与するため、同研究所内に平成30年5月にブランド育成センターを設置し、系統豚の生産や供給が出来る体制を強化してまいりました。今後

とも生産農場の皆様や各関係機関と連携を取りながら新ブランド豚肉「常陸の輝き」の生産拡大と、トップブランドとしてのブランド力向上に向けた試験研究を推進してまいります。さらに、地鶏では全国初となる地理的表示（GI）保護制度に登録しました本県銘柄鶏である「奥久慈しゃも」につきましては、当センターが奥久慈しゃもの原種鶏を維持し、生産組合に種鶏を提供しており、今後とも安定して供給が出来るよう、次世代鶏作出技術についての研究を進めております。

一方、「環境にやさしい資源循環型畜産の実現」に関しましては、国の研究部門や大学等とも連携して研究しており、低タンパク質飼料の給与によって生産性を維持しながら家畜排せつ物中の窒素量の削減や悪臭低減を図る技術、アナモックス菌を活用して畜産汚水中の窒素を除去する技術など、環境負荷低減に関する技術開発と実用化に向けた取組も進めております。

それらに加え、「畜産技術の習得支援や人材育成」に関しましては、職員の飼養生産・衛生技術の意識レベルの向上と安心安全へのリスク管理の強化を図るためにGAPチャレンジシステムに継続して取り組んでいる他、県ホームページやフェイスブックの機能を通じて県民の皆様に試験研究や畜産全般について広く知っていただくための活動を進めております。

最後になりますが、今後とも畜産経営体等の皆様の意見を伺いながら、儲かる畜産業の実現に向けて職員一丸となって取り組んでまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



新任あいさつ

茨城県畜産センター肉用牛研究所長 大浦 俊彦



このたびの人事異動により、肉用牛研究所長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

現在、本県では畜産行政の重点項目のひとつとして、常陸牛のブランド力強化を掲げ、和牛繁殖雌牛の増頭及び能力向上への取組みなどにより、常陸牛の高品質化と生産体制の整備を進めております。

当研究所におきましては、常陸牛生産の基盤となる高能力種雄牛の造成に力を注いでおり、現在、15頭の種雄牛を繋養し、人工授精用精液の配布を行っております。昨年度は長年、茨城県を代表する種雄牛として活躍してきました「北国関7」の子息である「北平関」を選抜し、精液配布を開始しました。「北平関」は、これまでの茨城県種雄牛のなかで最も枝肉重量の育種

価が高く脂肪交雑も上位であることが特徴で、父「北国関7」を凌ぐ活躍が期待されております。そのほかにも、肉質・増体に優れた「茂光洋」や「塙安福」、「日出丸105」、「百合宏」、「北平5」などの精液譲渡を行っており、これからも和牛繁殖農家や常陸牛生産者が求める種雄牛の改良造成に努めて参ります。

また、繁殖雌牛増頭のための技術開発研究として、水田や耕作放棄地を活用した周年放牧管理技術の確立や、早期母子分離・人工哺乳による子牛育成技術の確立などの研究に取り組んでおり、低コストで効率的な飼養技術の普及や、

新たな子牛生産体系の検討を進めて参ります。更に今年度から、脂肪酸関連遺伝子とおいしさ成分等との関連性を解明するための試験研究に取り組み、おいしい牛肉を生産できる遺伝子の情報を繁殖雌牛や種雄牛の選抜に利用することを目標に研究を進め、常陸牛の需要拡大・ブランド力アップにつなげて参ります。

今後とも、現場のニーズに対応した研究所を目指して試験研究、業務に邁進する所存でありますので、一層のご支援、ご指導をお願いいたします。



新任あいさつ

茨城県畜産センター養豚研究所長 笠井 勝美



この度の人事異動により、養豚研究所長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

養豚を取り巻く状況は、農家の高齢化、担い手不足、外国産の安価な豚肉の輸入等、年々厳しさを増し、さらに、ここ数年は衛生対策への取組強化が欠かせない状況になっています。

平成30年9月に岐阜県において日本で26年ぶりに発生した豚熱については、ワクチン接種の取組によって養豚場での発生は少なくなってきたものの、野生イノシシの感染は地域的に広がりを見せており、県内でも県北山間部を中心に12頭が確認されています（令和3年4月末時点）。養豚農家の皆様におかれましては、ワクチン接種に加えて、豚熱を媒介する野生イノシシや小動物が農場内に侵入しないよう、農場に設置した防護柵・防鳥ネットの定期的な点検や補修、人を介してウイルスを農場内に持ち込まないよう飼養衛生管理基準の再確認、万一異常が発生した場合の早期通報をお願いいたしま

す。

県では、「常陸の輝きのトップブランド化」を畜産行政の重点項目の一つとして位置付け、生産対策、経営対策、流通・販売対策に取り組んでいます。当養豚研究所としても、常陸の輝きの差別化を推進するため、更なる高品質化のための課題に重点的に取り組んでまいります。

具体的には、「ローズD-1」の遺伝子解析を用いた筋肉内脂肪含量の高位平準化、三元交雑豚安定生産のための「ローズL-3」の後継豚となる優秀なランドレース種の系統造成、農家ニーズに対応した大ヨークシャー種の改良等に取り組む、種豚や人工授精用精液の供給を通して、県内で生産される豚肉のブランド力強化と生産拡大につなげてまいります。

今後とも県内養豚農家の皆様の、儲かる畜産の実現のため、現場のニーズに対応した試験研究に取り組んでまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



新任あいさつ

茨城県鹿行家畜保健衛生所長 高橋 寛志



この度の定期人事異動により、鹿行家畜保健衛生所長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

昨今は、畜産の振興における家畜衛生分野の役割が増大し、まさに家畜伝染病予防法の基本的精神そして家畜保健衛生所の意義が注目を浴

びていると考えております。そして、鹿行地域は全国的にも有数の養豚地帯であり、万が一この地域での伝染病発生は本県のみならず全国的な規模で養豚生産に影響を及ぼすことが想定されます。

まず豚熱についてですが、2018年9月、国

内26年ぶりとなる発生が確認されて以降、これまでに飼養豚で13県67事例が確認されています。本県では発生はないものの、野生イノシシからは県南部及び県北部においてこれまで12例の豚熱陽性事例が確認されており、いつ農場発生が起こってもおかしくない状況が続いております。

また、2020シーズンは国内で高病原性鳥インフルエンザが流行し、18県52事例約987万羽の発生が確認され、過去最大となっている状況です。本県においても2月に約80万羽規模の採卵鶏農場で発生があり、県や町、各団体、自衛隊を含めて全体で約1万名の動員により防疫措置を行いました。この場をお借りいたしまして、作業に御協力いただいた皆様に対し感謝申し上げます。

これらのことから、県は発生予防対策として農場への病原体の侵入を防ぐため、飼養衛生管理基準の遵守徹底の指導や防護柵・防鳥ネット

等の設置支援を行うとともに、飼養豚へのワクチン接種、野生イノシシの捕獲強化、経口豚熱ワクチンの散布等の対応を講じてきました。

そして、万が一発生した際のまん延防止対策として、県は市町村、生産者団体と連携を図り、地域一体となった防疫体制を構築するための動員体制及び防疫マニュアルを見直しているところです。

以上のように、家畜衛生を取り巻く状況は日々大きく変化しておりますが、引き続き、生産者、市町村、団体等、関係業者の方々からの貴重なご意見に耳を傾けながら、家畜の伝染性疾病の発生、まん延の防止に取り組むとともに、地域の畜産経営が安定して発展できるよう家畜伝染病の検査業務を通して畜産物の安定供給に貢献してまいりますので、家畜衛生行政の推進に対する一層のご理解・ご協力をいただきますようお願い申し上げます、新任のご挨拶とさせていただきます。

茨城県畜産センター令和3年度新規試験研究課題の紹介

茨城県畜産センター 企画情報室

〇はじめに

当センターでは、畜産農家の儲かる経営を実現するため以下の項目について重点的に推進しています。

- ①畜産物の高付加価値化のための家畜改良や関連技術の開発
- ②規模拡大や飼育技術向上など農家の経営改善に必要となる技術開発
- ③家畜排せつ物の適正処理や環境負荷低減に必要となる技術開発
- ④生産者等の畜産技術の習得支援や人材の育成等

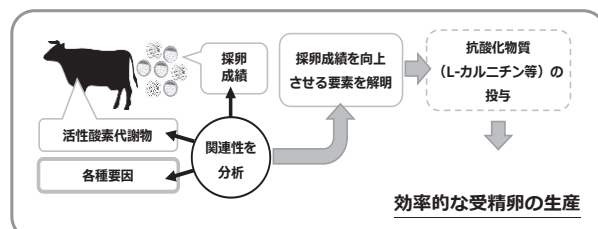
〇令和3年度新規試験研究課題について

令和3年度から開始された新規3課題についてご紹介します。

1 常陸牛増産のための抗酸化物質投与等による良質受精卵採取技術の開発

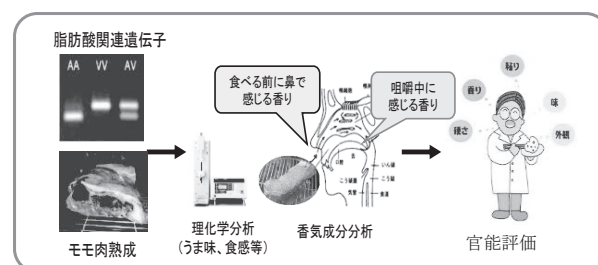
黒毛和種繁殖雌牛における活性酸素代謝物及び飼養環境等の各種要因と採卵成績の関連性を調査することで、採卵成績向上の要素を解明します。さらに、卵巣への酸化ストレス軽減作用があるL-カルニチン等の抗酸化物質を用いた

採卵成績向上方法を検討します。

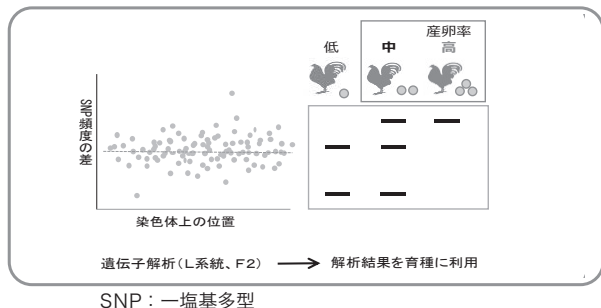


2 常陸牛品質向上のための脂肪酸関連遺伝子と美味しさ成分等との関連性の解明

これまでの研究で、不飽和脂肪酸合成に関わる遺伝子や、牛肉のおいしさ向上に関与（不飽和脂肪酸に起因）する香り成分について明らかになってきています。しかし、この遺伝子とおいしさの関連性は不明であることから脂肪酸合成に関連する遺伝子と理化学性状（脂肪酸、脂肪融点、食感等）、香り成分及びおいしさの関連性を明らかにします。



3 奥久慈しゃもの遺伝子解析を用いた次世代
種鶏群育成技術の開発に関する試験研究事業
当センターでは「奥久慈しゃも」の原種鶏（J、
T、L）を維持しており、生産者へ種鶏（J、T、L）
のひなを供給しています。原種鶏は、閉鎖群で
血統維持されており、近交退化と呼ばれる不良



形質の発現が危惧されていることから、遺伝子
解析を用いて近交退化を抑制した次世代鶏作出
技術を確立し、県内の養鶏業のさらなる振興に
つなげていきます。

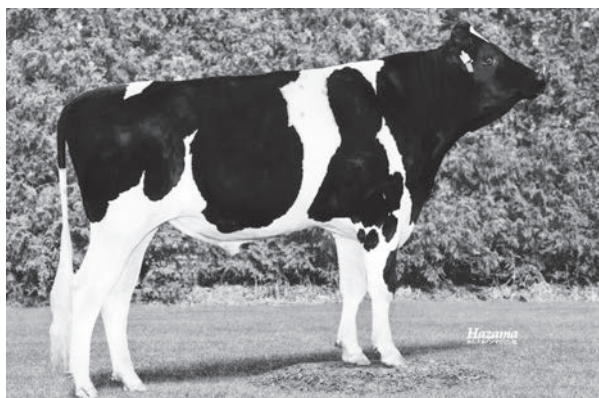
（J：シャモ種、T：名古屋種、L：ロードアイランドレッド種）

○最後に

企画情報室では、試験研究や普及活動等が円
滑に推進できるように試験研究の企画立案及び
調整、試験研究に関する外部評価を受けるため
の事務局の運営等を行っています。さらに今年
度からは生産者等の畜産技術の習得支援及び関
係職員や研究員の技術向上に向けた研修・講習
会の開催による人材の育成等について強化を図
ってまいります。

茨城県初となる乳用種国産種雄牛誕生「記念贈呈式」を開催

茨城県酪農業協同組合連合会



令和2年8月にNTP第1位獲得
「グリーンエンジェル ラークレスト JC スター ET」



寄贈プレート贈呈 佐藤範之様(左) 荒井委員長(右)
茨城県乳牛改良委員会

記念贈呈式を開催

令和3年3月3日という記憶に残る日に、茨
城県初の乳用種国産種雄牛を生産した茨城県常
陸太田市里川町「佐藤信次牧場」において、記
念贈呈式を行いました。

茨城県初となる乳用種国産種雄牛（グリーン
エンジェル ラークレスト JC スター E
T）が、令和2年2月の乳用種雄牛評価成績で
NTP第2位で、（一社）ジェネティクス北海道
より新規デビューし、その後、同年8月の評価
成績でNTP第1位に輝き、その功績を称える
ため記念贈呈式を開催致しました。

記念贈呈式にあたり、茨城県酪農業協同組合



記念品盾の贈呈 朝倉代表理事会長(右)
佐藤範之様(左) 茨城県酪農業協同組合連合会



ウォールサイン贈呈 朝倉代表理事会長（右）
佐藤信次様（左） 佐藤範之様（中央）



ウォールサイン・寄贈プレートを囲み
関係者一同で記念撮影

連合会の朝倉実行代表理事会長・寛晴夫代表理事専務・茨城県乳牛改良委員会荒井裕一郎委員長及び佐藤信次様が所属する茨城北酪農業協同組合の橘和宏理事・萩谷勝男参事など関係者が一堂に会し、佐藤信次様と佐藤範之様に、記念品の贈呈とともに荣誉を称えるお祝いの言葉が添えられました。

朝倉実行代表理事会長より、お祝いの言葉として、佐藤信次様及び佐藤範之様に、酪農家の夢である乳用種国産種雄牛を茨城県から初めて

生産出来たこと、更には令和2年8月の乳用牛評価成績で、全国第1位に輝き快挙を成し遂げたことそして、全国の酪農家にその優秀な遺伝子を供給し、乳牛改良に大きく貢献出来ることは、大変素晴らしいことであり、茨城県の誇りであるとの挨拶をいただきました。

荒井乳牛改良委員長より、茨城県初の国産種雄牛は、輸入受精卵から生産されたが、私の牧場にも同じ輸入受精卵から生産された娘牛があり、乳用牛評価成績で全国第1位の成績と同じ優秀な遺伝子が娘牛としていることを誇りに思う。佐藤信次様は、以前、茨城県乳牛改良委員会の委員長として県内の乳牛改良に尽力されており、その結果として、今回の国産種雄牛誕生に繋がったと感じているとの挨拶がありました。

佐藤信次様より、茨城県初の国産種雄牛が誕生したのは、自分だけの努力ではなく関係者の協力があってこそ誕生と思うので、今後も関係者の皆様と協力しながら、乳牛改良に尽力していくとの挨拶がありました。



記念贈呈式後 佐藤信次牧場に取り付けられた
ウォールサインと寄贈プレート

令和3年3月市況

子豚市場

全農茨城県本部 子豚市場

開催日	区分	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)
10	一般子豚	26	35,970	32,010	33,838	50
	ベビー豚	103	35,420	32,340	33,924	35
24	一般子豚	22	36,190	30,800	33,250	50
	ベビー豚	100	33,770	22,330	27,792	35

牛市場

全農茨城県本部 家畜市場

開催日	畜種	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)	kg当たり単価(円)
14	和牛	♀	84	1,018,600	210,100	685,339	288	2,383
		♂	0					
		去計	117	1,068,100	478,500	834,562	317	2,630
		計	201	1,068,100	210,100	772,200	305	2,533
		経産	13	743,600	171,600	356,315	-	-

大子町畜産農業協同組合 大子家畜市場

開催日	畜種	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)	kg当たり単価(円)
16	和牛	♀	31	1,019,700	471,900	714,006	279	2,552
		♂	1	566,500	566,500	566,500	173	3,274
		去計	39	1,083,500	529,100	829,682	302	2,742
		計	71	1,083,500	471,900	775,469	290	2,667

食肉地方卸売市場

株式会社茨城県中央食肉公社

開催日			豚枝肉：日曜、祭日を除く毎日					牛枝肉：毎週月曜日、木曜日				
畜種	項目		上場頭数		卸売価格(枝肉1kg当たり単価・円)						屠畜頭数	
	頭数	平均重量(kg)	極上	上	中	並	外	平均	豚	牛		
豚	14,106.0		80.2	549	489	448	423	437	454	27,182	1,006.5	
牛	頭数		平均重量(kg)	5	4	3	2	1	平均単価(円)			
和牛	A	188	232	458.8	2,812	2,564	2,240	1,380	1,018	2,396		
	B	32			2,529	2,272	1,691	1,221	965			
	C	12			—	—	—	1,109	841			
乳牛	A	—	174	304.1	—	—	—	—	—	636		
	B	12			—	—	—	699	—			
	C	162			—	—	594	673	610			
交雑牛	A	14	58	469.0	1,969	1,756	1,658	—	—	1,522		
	B	38			1,840	1,708	1,601	1,281	—			
	C	6			—	—	1,398	913	—			

3月の市況は3月集計数値を4月上旬に掲載します。

茨城県家畜商業協同組合 茨城県中央家畜市場

開催日			5、9、15、19、25、29			
畜種	年齢	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)
乳牛	スモール	♀	3	209,000	8,800	87,267
		♂	121	187,000	3,300	119,136
		去計	1	110,000	110,000	110,000
	子牛	♀	125	209,000	3,300	118,298
		♂	0			
		去計	1	23,100	23,100	23,100
F1	スモール	♀	0			
		♂	1	23,100	23,100	23,100
		去計	0			
	子牛	♀	1	23,100	23,100	23,100
		♂	1	247,500	33,000	152,338
		去計	85	273,900	23,100	185,447
黒毛和種	スモール	♀	175	273,900	23,100	168,419
		♂	1	245,300	245,300	245,300
		去計	1	198,000	198,000	198,000
	子牛	♀	0			
		♂	2	245,300	198,000	221,650
		去計	2	495,000	495,000	495,000
	3歳以上	♀	9	495,000	298,100	471,778
		♂	1	720,500	720,500	720,500
		去計	17	720,500	298,100	495,971
	子牛	♀	1	231,000	231,000	231,000
		♂	2	676,500	496,100	586,300
		去計	0			
	3歳以上	♀	3	676,500	231,000	467,867
		♂	7	462,000	242,000	337,071
		去計	0			
	3歳以上	♀	7	462,000	242,000	337,071
		♂	7	462,000	242,000	337,071
		去計	7	462,000	242,000	337,071

肉用子牛生産者補給金発動状況

令和2年度第4四半期(2021年1～3月)

○肉用子牛生産者補給金制度

(単位：円／頭)

区分	黒毛和種	褐毛和種	その他の肉専用種	乳用種	交雑種
保証基準価格	541,000	498,000	320,000	164,000	274,000
合理化目標価格	429,000	395,000	253,000	110,000	216,000
平均売買価格	774,500	721,900	297,300	249,800	380,500
補給金単価	-	-	22,700	-	-

令和3年4月市況

子豚市場

全農茨城県本部 子豚市場

開催日	区分	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)
7	一般子豚	23	26,840	23,650	25,453	50
	ベビー豚	94	30,690	21,340	24,386	35
21	一般子豚	22	31,350	31,020	31,200	50
	ベビー豚	117	31,900	3,630	25,520	35
30	一般子豚	0				
	ベビー豚	145	38,720	3,630	25,707	35

牛市場

全農茨城県本部 家畜市場

開催日	畜種	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)	kg当たり単価(円)
14	和牛	♀	82	866,800	327,800	694,811	295	2,355
		♂	0					
		去計	97	1,226,500	442,200	835,115	323	2,582
		経産	179	1,226,500	327,800	770,842	310	2,483
			6	418,000	177,100	252,633		

大子町畜産農業協同組合 大子家畜市場

開催日	畜種	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)	kg当たり単価(円)
なし	和牛	♀ ♂ 去計						開催なし

食肉地方卸売市場

茨城県中央食肉公社

開催日	豚枝肉：日曜、祭日を除く毎日							牛枝肉：毎週月曜日、木曜日			
項目 畜種	上場頭数		卸売価格(枝肉1kg当たり単価・円)							屠畜頭数	
	頭数	平均重量(kg)	極上	上	中	並	外	平均	豚	牛	
豚	13,423.0	80.5	504	489	457	435	450	462	26,077	780.0	
牛	頭数	平均重量(kg)	5	4	3	2	1	平均単価(円)			
和牛	A 305	348	491.0	2,838	2,603	2,360	1,308	738	2,583		
	B 24			2,318	2,576	2,450	1,340	1,031			
	C 19			-	-	-	1,074	906			
乳牛	A -	223	328.1	-	-	-	-	-	721		
	B 25			-	918	-	788	668			
	C 198			-	1,101	972	774	641			
交雑牛	A 17	84	487.3	2,090	1,781	1,770	1,592	-	1,596		
	B 52			-	1,774	1,631	1,355	-			
	C 15			-	1,531	1,288	1,437	619			

茨城県家畜商業協同組合 茨城県中央家畜市場

開催日			5、9、15、19、25、29				
畜種	年齢	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	
乳牛	スモール	♀	5	49,500	12,100	35,860	
		♂	83	205,700	5,500	134,200	
		去計	2	57,200	55,000	56,100	
	子牛	♀	90	205,700	5,500	127,001	
		♂	2	221,100	196,900	209,000	
		去計	0	71,500	71,500	71,500	
F1	スモール	♀	3	221,100	71,500	163,167	
		♂	50	266,200	116,600	200,838	
		去計	59	311,300	92,400	226,563	
	子牛	♀	0	311,300	92,400	214,762	
		♂	4	298,100	231,000	268,950	
		去計	2	231,000	198,000	214,500	
黒毛和種	スモール	♀	1	418,000	198,000	418,000	
		♂	7	418,000	198,000	274,686	
		去計	4	495,000	495,000	495,000	
	子牛	♀	5	605,000	495,000	517,000	
		♂	0	605,000	495,000	507,222	
		去計	9	605,000	495,000	507,222	
	3歳以上	♀	1	192,500	192,500	192,500	
		♂	5	584,100	495,000	537,240	
		去計	6	584,100	192,500	479,783	
			8	337,700	272,800	300,300	
			8	337,700	272,800	300,300	

牛マルキン発動状況

販売月	支払区分	肉専用種(注)	交雑種	乳用種
令和3年3月	確定単価	-	26,658.9円	54,922.5円
令和3年2月	確定単価	8,122.95円	82,541.7円	48,483.9円
	概算払単価	5,949.15円	79,618.1円	45,662.9円
令和3年1月	確定単価	4,542.75円	22,759.2円	43,453.8円
	概算払単価	2,038.2円	19,405.4円	39,958.7円

※注 肉専用種については積立金不足で、国費分(4分の3相当額)で交付しているため、表示単価は4分の3相当額になっています。

四半期の最終月以外については、交付金を概算払いし、各四半期の最終月に確定単価で精算払いをしています。(配合飼料価格安定制度の見直しによる生産費用算出の関係によるもの。)また、消費税抜きで算定されています。

◎算定基礎の詳しい情報は、(独)農畜産業振興機構HP (<http://www.alic.go.jp>) をご覧ください。

肉用牛肥育経営安定交付金制度(牛マルキン改正内容)

(1) 生産者負担金の納付猶予ー新型コロナウイルス感染症対応ー

令和2年4月末から納付期限を迎える全ての登録肉用牛について当面の間、生産者負担金の納付が猶予されます。発動があった場合、猶予対象牛の実際に受け取る交付金額はおよそ4分の3となります。

(2) 算定方法の見直し

令和2年5月支払分(令和2年3月販売分)から交付金の算定方法が変わりました。

① 算定区域の見直し：標準的販売価格の算出について、今までの県別からブロック毎になります。

② もと畜費の見直し：もと畜費の算出に使用している「肉用子牛取引情報」について、近年の子牛の大型化が進む中、同情報のデータが340kg以下に限定されていることから実態が反映されていなかった。そこで体重制限を無くし日齢を182日から365日に変更し、より実態に即した素畜費となるようになりました。

茨城県の野生イノシシの豚熱の発生状況と 養豚場への豚熱ウイルスの侵入防止と発生予防

令和2年6月25日、茨城県で初めて取手市で発見された死亡野生イノシシで豚熱の発生が確認されました。茨城県では、令和3年4月末現在、12例（取手市、守谷市、常陸太田市、常陸大宮市、大子町）の発生があり、特に4月以降、大子町（5例）、常陸太田市（2例）で相次いで確認されています。

茨城県は、令和元年9月から、野生イノシシを介した豚熱ウイルスの拡散防止と養豚場への豚熱ウイルスの侵入リスクの低減を目的に、野生イノシシへの経口ワクチン散布を開始しました。今年度は、5月下旬から、栃木県境の大子町、常陸大宮市、城里町、笠間市、桜川市、石岡市、常陸太田市の7市町、渡良瀬遊水地から利根川沿い河川敷の古河市、五霞町、境町、坂東市、守谷市、取手市の6市町で実施します。

また、茨城県は、令和2年2月17日に豚熱ワクチンの全頭接種を開始しました。5月12日に県内367農場、約31万頭の接種が終了し、3月17日からは、新たに出生した豚について接種が行われています。

しかし、令和3年3月31日以降、豚熱ワクチン接種県の養豚場で5件（奈良県、群馬県、三重県、栃木県）の発生が確認されています。

豚熱ワクチンは、接種していても必ずしも全

ての豚が免疫を獲得できるわけではありません。また、必ずしも全ての子豚に適切な時期に接種できるわけでもありません。農林水産省は、「ワクチンを過信せず、飼養衛生管理の徹底を」と呼びかけています。異常豚を確認しても、「ワクチンを接種しているから大丈夫」、獣医師、家畜保健衛生所への通報が遅れることが問題です。

養豚場への豚熱ウイルスの侵入防止は、野生イノシシへの経口ワクチン散布を継続し、環境中のウイルス濃度を低減させること、豚飼養者の皆様においては、農場への野生動物の侵入防止対策として、豚舎周囲の石灰散布、防護柵、防鳥ネットの設置、点検を行うこと、発生予防対策として、飼養衛生管理基準の遵守を徹底すること、豚熱ワクチンが適切な時期に接種されることが重要です。

茨城県は、養豚場での発生はありませんが、野生イノシシを介しての感染に注意が必要です。



衛生課（獣医師：前田）

茨城県が誇る、極上の霜降り牛肉

常陸牛

振興委員会

ひたちぎゅう

茨城県銘柄鶏

奥久慈しゃも

奥久慈しゃも生産組合

〒319-3523 茨城県久慈郡大子町袋田3723
TEL / 0295-72-4250
FAX / 0295-72-2944

いばらきの高品質豚肉

ローズポーク

茨城県銘柄豚振興会

事務局
〒311-3155 東茨城郡茨城町下土師1950
全国農業協同組合連合会 茨城県本部内
TEL / 029-292-8004
FAX / 029-292-7743

公益社団法人 茨城県畜産協会

TEL / 029(231)7501 FAX / 029(222)2032

- 当協会に対する意見・要望
Eメール info@ibaraki.lin.gr.jp
- 本紙への掲載「催事・各種情報」
Eメール kobayashi-kenichi@ibaraki-lia.or.jp
- ホームページ
http://ibaraki.lin.gr.jp